

殿山第二小だより

令和 4 年 1 月 1 7 日 第 3 0 号

枚方市立殿山第二小学校

TEL:050-7102-9044

令和3年度 学校教育自己診断 保護者アンケート集計結果 その2

新型コロナウイルス感染防止対策を日々行いながら、学校教育活動を地道に積み上げているところです。今できることを、精一杯やりきることで、自ずと希望の光が見えてくると信じて、粘り強く、そして、にこやかに“チームとの二”の歩みを進めていきたいと考えています。

殿山第二小だより本第30号、31号で、第29号でお示ししました保護者の皆様から頂いた回答結果を基に、考察した内容をお伝えいたします。

回答結果からの成果と課題について

- ◆全20設問の肯定的回答（A：そう思う＋B：どちらかといえばそう思う）の平均数値は、84.6%でした。

児童アンケートの平均肯定的回答の数値が、85.35%でしたので、保護者アンケートからの数値は少し低くなっているものの、総体では、本校教育にご理解いただけているものと感謝しています。平均肯定的回答数値からは、学校教育の総合力・教育のバランス感覚を視る指標として考えていきたいと思っています。

二年目となったコロナ禍、保護者の皆様との交流もままならない状況が続き、ご家庭と学校の想いを伝え合える場がなかなか持ちにくく、もどかしい思いを抱かざる負えない日々を過ごしていますが、学校教育で大事にしなければならないことは、子どもたち一人ひとりの心身の健康第一だと思います。今後も創意工夫を凝らし殿山第二小教職員一丸となって努力していきたいと思っています。

- ◆「1. 学校は、学校だより、通信、ホームページ・ブログ、ミルメール等を通して、教育方針や教育活動をわかりやすく伝えている。」「2. 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。」「3. 学校は、落ち着いた雰囲気の中で、授業を行っている。」これら3問の設問は、特に学校教育が担う重要な事柄と考えています。

3問の肯定的回答の平均数値は、92.3%と高い数値でした。タイムリーな情報を具体的に、わかりやすく保護者の皆様にお伝えすることが大事なことと考えておりますが、文面だけからは、その時々受け取り方の相違がある場合も考えられ、思い（想い）をどのようにお伝えしていくか、ということは、今後も続く課題だと思います。

学校と家庭が共通の認識を持って、子どもたちの教育をすすめていくことが何よりも大切なことと考えます。子どもたちの“学び”が豊かなものとなっていきますよう努めていきたいと思っています。

どうぞ、もし、ご不明な点がございましたら遠慮なく、担任や関係教職員にお知らせくださればありがたいことと思います。

- ◆「8. 先生は、子どもの意見や考えを大切にしてくれる。」「9. 学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。」「10. 先生は、子どものがんばりをほめてくれている。」「11. 学校は、子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を育てようとしている。」「14. 学校は、全ての教育活動において、子どもの人権を尊重する姿勢で指導にあたっている。」これら5問の設問は、学校に対する“安心感”“信頼感”に通じるものと考えています。

学校は“学びの場”。そして、子どもたちにとって“教室（学級）”は、居心地の良い“居場所”でなければなりません。また、一人ひとりの個性が尊重され、互いの違いを認め、高めていける“居場所”でなければなりません。このような学びの環境づくりには5問の設問内容は大切な意味合いがあると思います。

この5問の肯定的回答の平均数値は、92.8%でした。しかし、5%の否定的回答数値に留意する必要があります。きめ細やかに子どもたちの表情を観ながら、日々の声掛けをしていくことが大事なことだと思います。教職員も一人ひとり個性があり、得意なことあれば苦手なこともあります。教職経験も様々です。“チームとの二”として、教職員同士も互いに学び合い、認め合い、高め合う人間関係の構築に努め、学校教育を担う自覚と責任を持つということを再確認しました。一人ひとりの子どもたちに“愛情”を持って教育に努めていきたいと思っています。

- ◆「6. 先生は、わかりやすい授業づくりのために、いろいろ工夫してくれている。」肯定的評価96%。「7. ICT機器など、特にタブレットを活用した授業は、わかりやすい。」肯定的評価86%でした。

教師の本分は、日々の“授業”にあると自覚しているところです。その意味で、設問6の肯定的回答が96%で、A：そう思うが51%、B：どちらかといえばそう思うが45%でした。A評価が6ポイント上回った結果からも、私たち教職員の教育活動が認めていただいていると、今後も自信を持って授業にとりこんでいきたいとモチベーションを上げることができました。

全学年児童のタブレット活用スキルは、向上してきています。しかし、学習内容をより深く理解するための活用には至っていません。今後も“授業づくりの工夫”の中に、どのようにタブレットを活用していくか、教師側の活用スキルの向上と授業力向上のため研修・修養に努めていきたいと思っています。